

図書館だより

No.175



2010(平成22)年3月16日発行

編集・発行 福島県立図書館

〒960-8003 福島市森合字西養山1番地

Tel 024-535-3218 Fax 024-536-4787

<http://www.library.fks.ed.jp/>

4月23日は子ども読書の日



毎年4月23日は、「子どもの読書活動の推進に関する法律」に定められた「子ども読書の日」。県立図書館ではこの日にちなみ、展示や朗読会等のイベントを開催します。あたたかな日差しの中、緑に囲まれた図書館へ足を運んでみませんか？

～県立図書館における「子ども読書の日」関連事業～

①原國雄とその仲間たちによる朗読会

日時：4月25日(日) 13:00～14:00

場所：当館・第一研修室

対象：幼児～大人まで、どなたでも参加いただけます。

申込み等：事前の申込みは必要ありません。当日、会場までお越し下さい。

②児童書展示会

期間：4月23日(金)～4月25日(日)

場所：当館・第二研修室

対象：幼児～大人まで、どなたでもご覧いただけます。

内容：子どもたちにお薦めする優良図書・新刊図書を展示します。

「子ども読書活動推進セット」等のセット図書を展示します。

併せて、当館職員による「読み聞かせ」を実施します



図書館では、その他にも展示スペースを利用した様々な催しを行っています。

【展示コーナー】

“晴れ着”を着せた日本の近代文学
～ブックカバーとのコラボレーション～

期間：4月2日(金)～6月30日(水)

内容：郡山市在住の橋本佳園子さんのブックカバーと当館資料の日本近代文学の初版本・復刻版等を展示します。また、5月には関連イベントとしてブックカバー作成のワークショップ、丹精込めた作品のギャラリートークを開催する予定です。



【ロビー展示】

4月2日(金)～5月5日(水)

「花見山～ふくしま四季倶楽部写真展②～」

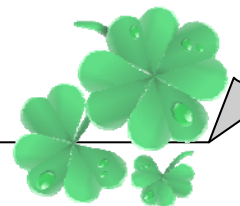
5月7日(金)～6月2日(水)

「ヨークカルチャー油絵教室展(仮称)」

6月4日(金)～30日(水)

「動物(仮称)～鈴木裕子・橋本真貴二人展～」

どれも素晴らしい作品ばかりです。
ぜひ気軽に足をお運び下さい！



新着案内

各分野の担当者が選んだ、お勧めの新着資料をご紹介します。

人文・自然

『100歳詩集 逃げの一手』

まど・みちお/著・挿画 小学館 2009.11
911.56/マミ09Y

童謡「ぞうさん」などで知られるまど・みちおさん。100歳を迎えた今も「マンネリズムで書きたくない」「どんなにささやかでも新発見を書かなくてはいけない」との思いで創作活動を続けているそうです。詩の題材は身近な日常の出来事、ことば遊び、年齢を重ねた自分自身など。それらの一篇一篇には、まどさんの視点の優しさやユーモアが満ちており、心が温かくなる一冊です。

『「物質」から「生命」へ

20世紀科学史の転換と日本』

鈴木 理/著 学研教育出版 2009.11 402/マ709Y

20世紀、科学は原子の構造を探る物理学から、DNAの構造と働きを明らかにする分子生物学へ裾野を広げました。ここには、生命現象を物理法則で説明しようとする考えと、X線解析を始めとする分析技術の進歩がありました。

その過程を、日本の科学事情とからめながら、豊富なエピソードや写真で読み解いていきます。関連する本や映画なども紹介していますので、読書案内として利用できます。

社会

『戦国武将お墓参り手帖』

武家カルチャー研究所/編 芸文社 2009.9
281.02/マ909

ゆっくりと春の訪れを感じるようになり、そろそろどこかへ行きたい気分…桜めぐりもいいけれど、この春は全国各地に眠る戦国武将のお墓を訪ねてみてはいかがでしょうか？

この本には各武将の墓所のみならず、生没年や戒名、プロフィール、お墓参りの作法などもあり、旅のお供に最適です。

花を愛でつつ、もののふたちの声を聞く。そんな春の一日も素敵だなと思います。

『図解 表示のカラクリ』 表示の謎研究会/編集 彩図社 2009.3 365/ヒ3093

日常生活の中で何気なく目にしている表示。意味は何だろうと考えると、よく分からないものは意外と多い。缶コーヒーなどに見られる「甘さひかえめ」、「糖分ひかえめ」、「30%低糖」はどうちがうのか？新鮮な豚肉の見極め方、よく消える消しゴムの選び方、抗菌の種類の違いなど、生活をする上で役に立つ表示のカラクリが紹介されています。

雑誌・新聞

最近ハイチ、チリと連続して発生し、遠く離れた日本にも様々な影響を及ぼしている「地震」についての記事をご紹介します。

『世界』2010.3 発行 岩波書店 Z051/S1

—世界の潮 ハイチ大地震 被害拡大の背景

『前衛』2010.2 発行 日本共産党中央委員会
Z315.1/Z1

—原発の大地震への備えは大丈夫か

『週刊東洋経済』2010.1.16 発行 東洋経済新報社
Z330.5/T4

—ニッポンの「備えなき大国」の真相 犯罪と災害
災害編 “防災列島”のお寒い現実

『地質ニュース』2009.11 発行 実業公報社
Z455/C1

—特集 古地震と現在の地殻活動から地震を予測する

『月刊地球』2009.3.1~7.15 発行 海洋出版
Z450.5/C2

—総特集 連動型巨大地震（4ヶ月連続連載）

『文部科学時報』2009.7 発行 ぎょうせい
Z370.5/M3

—特集 知ってますか？ 地震研究フロンティア

地域

『回想の松川弁護』大塚 一男/著 日本評論社
2009.10 L327.8/02/6

今から61年前、東北本線松川駅付近で列車が脱線転覆した事故—松川事件をご存知でしょうか。

この事件の裁判では、1・2審の有罪判決を覆し、被告全員が無罪判決を勝ち取りましたが、その道のりは14年間におよび5つの裁判を経ての結果でした。

本書は、主任弁護人として裁判を闘い抜いた著者が事件後60年目の昨年、これまでの論文に初出を加え出版したものです。

人を裁くことに市民が参加する現在、風化させてはならない昭和史のひとつです。

『智恵子抄の光景』大島 裕子/著 新典社
2009.11 L289/T22/43

愛の詩集として時代を超え多くの人々に読み継がれている『智恵子抄』。

この新刊で著者は「はしがき」にこう記しています。「本書は、封建社会から解き放たれた芸術家夫妻の妙に切実で、時に哀しく時に美しい『智恵子抄』の世界を少し違った角度から読み解いていく入門書です。」

『智恵子抄』誕生の背景をたどることにより、詩の世界が一層味わい深く感じられます。もう一度詩集を開いてみませんか。